

葛飾区ごみ性状調査

報告書

(概要版)

令和4年12月

葛 飾 区

目 次

第 1 部	ごみ性状調査	1
第 1 章	調査概要	1
1.1	調査の目的	1
1.2	調査の内容	1
第 2 章	調査結果	3
2.1	組成分析結果	3
2.2	プラスチック製容器包装の汚れ調査	7
2.3	製品プラスチックの品目	8
2.3	排出容器の見かけ比重	10
2.4	過去の調査結果との比較	11
2.5	適正排出率と資源等混入率	13
第 3 章	目標達成に必要な分別協力率	15
第 2 部	食品ロス調査	17
第 1 章	調査概要	17
1.1	調査の目的	17
1.2	調査の内容	17
第 2 章	調査結果と解析	18
2.1	生ごみの割合	18
2.2	直接廃棄の詳細	18
2.3	葛飾区の生ごみ量の推計	20

第 1 部 ごみ性状調査

第 1 章 調査概要

1.1 調査の目的

葛飾区内の集積所に排出されるごみ・資源等について、組成割合や排出実態等の調査を行い、得られたデータを整理・分析することで、葛飾区一般廃棄物処理基本計画（第 4 次）の適正な推進に向けた基礎資料とする。

1.2 調査の内容

燃やすごみ、燃やさないごみ、プラスチック製容器包装の分別度合いや、資源物の混入を調査した。

(1) 調査対象

①調査地区・集積所

調査対象集積所を選定するため、クラスター分析により調査対象地区を 6 地区に分類した。クラスター分析に使用したパラメータは、①一戸建て住宅の人口密度、②1～5 階建住宅の人口密度、③6 階建以上住宅の人口密度、④事業所の従業員密度、⑤商業系事業所(卸売り・小売業、飲食・宿泊業)の従業員密度である。

各地域の居住人口のバランス等を考慮して、図表 1-1-1 に示す 30 集積所を選定した。

②分析対象分別区分

本調査では、「燃やすごみ」、「燃やさないごみ」、「プラスチック製容器包装」を対象とし、1 集積所あたり各 1 回を調査対象とした。

(2) 調査期間

調査は令和 4 年 9 月 12 日(月曜日)～24 日(土曜日)(18 日(日曜日)は除く)に実施した。

(3) 調査分析場所

分析作業は、東京二十三区清掃一部事務組合葛飾清掃工場で実施した。

(4) 調査項目

- ① 組成別に分別と計量
- ② プラスチック製容器包装の汚れ調査
- ③ 製品プラスチックの品目調査
- ④ 食品ロスの調査

表 1-1-1 調査対象地区

クラスター番号	地域の特徴	対象地域	対象地域の人口(人)	対象地域の人口割合	集積所番号	対象集積所	
1	大型駅周辺の商業地区	亀有3丁目 金町6丁目 東金町1丁目	15,744	3.5%	1	亀有3丁目	
2	駅周辺の準商業地区	立石1・4・5・7丁目 四つ木2・5丁目 堀切3丁目 小菅4丁目 お花茶屋1丁目 亀有5丁目 青戸3丁目 新小岩1・2丁目 金町1丁目	41,700	9.4%	2	立石1丁目	
					3	立石4丁目	
					4	立石7丁目	
					5	四つ木2丁目	
					6	新小岩1丁目	
3	大規模団地などが多い地区	東四つ木2丁目 白鳥4丁目 青戸7丁目 東新小岩1 ～3丁目 西新小岩1丁目 高砂4丁目 柴又2丁目 新 宿6丁目 南水元3丁目	39,675	8.9%	7	東新小岩1丁目	
					8	柴又2丁目	
4	人口密度が比較 的高く事業活動 が活発な地区	立石2・3・6丁目 東立石2・3丁目 四つ木4丁目 東四つ木4丁目 宝町1・2丁目 堀切8丁目 東堀切2 丁目 お花茶屋3丁目 白鳥1～3丁目 亀有1・2・4丁 目 西亀有2・4丁目 青戸4～6丁目 東新小岩5～8 丁目 西新小岩4丁目 奥戸3・4丁目 高砂3・5丁目 鎌倉1・3丁目 柴又3丁目 新宿4丁目 金町2・4・5 丁目 東金町2丁目 西水元5丁目	132,205	29.7%	9	宝町1丁目	
					10	白鳥1丁目	
					11	白鳥2丁目	
					12	亀有1丁目	
					13	西亀有2丁目	
					14	青戸4丁目	
					15	東新小岩7丁目	
5	一戸建 て・低中 層集合住 宅地区	人口密度が比較 的高く事業活動 があまり活発で はない地区	堀切5～7丁目 東堀切1丁目 小菅2丁目 お花茶屋 2丁目 西亀有3丁目 新小岩3・4丁目 東新小岩4丁 目 西新小岩5丁目 高砂7・8丁目 鎌倉2・4丁目 細 田1・4・5丁目 柴又1・4丁目 東金町3～5丁目 水元 2～4丁目 東水元1丁目 南水元4丁目	81,356	18.2%	18	鎌倉2丁目
						19	東金町3丁目
						20	東金町5丁目
6	人口密度が低く 事業活動があまり 活発ではない 地区	立石8丁目 東立石1・4丁目 四つ木1・3丁目 東四つ 木1・3丁目 堀切1・2・4丁目 東堀切3丁目 小菅1・3 丁目 西亀有1丁目 青戸1・2・8丁目 西新小岩2・3 丁目 奥戸1・2・5～9丁目 高砂1・2・6丁目 細田2・ 3丁目 柴又5～7丁目 新宿1～3・5丁目 金町3丁 目 東金町6～8丁目 水元1・5丁目 東水元2～6丁 目 南水元1・2丁目 西水元1～4・6丁目	135,108	30.3%	21	堀切1丁目	
					22	青戸1丁目	
					23	奥戸2丁目	
					24	奥戸9丁目	
					25	高砂1丁目	
					26	細田2丁目	
					27	柴又5丁目	
					28	新宿3丁目	
					29	東水元5丁目	
					30	西水元2丁目	
合計			445,788	100.0%			

第2章 調査結果

2.1 組成分析結果

(1) 燃やすごみ

① 家庭ごみ

家庭ごみの燃やすごみは、厨芥が30.6%と最も高く、次いで、紙類が28.8%、その他可燃物が13.2%と続いている。

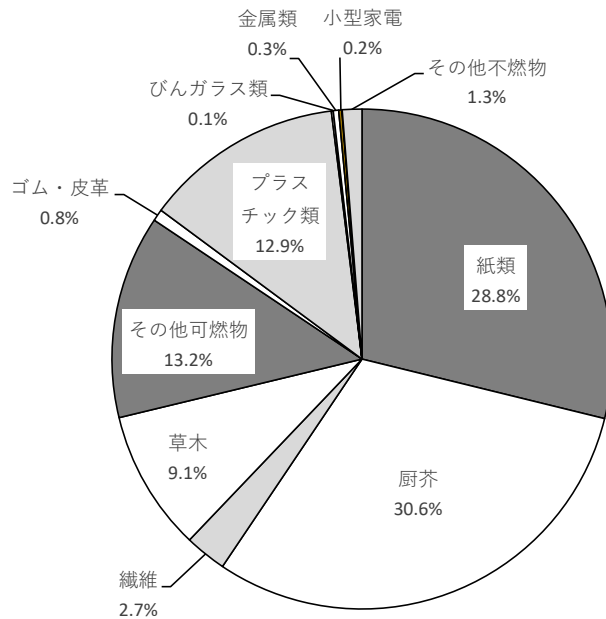


図 1-2-1 家庭ごみの燃やすごみの組成(概要)

② 事業系ごみ

事業系ごみの燃やすごみは、厨芥が40.3%と最も高く、次いで、紙類が28.6%、ゴム・皮革が19.3%と続いている。

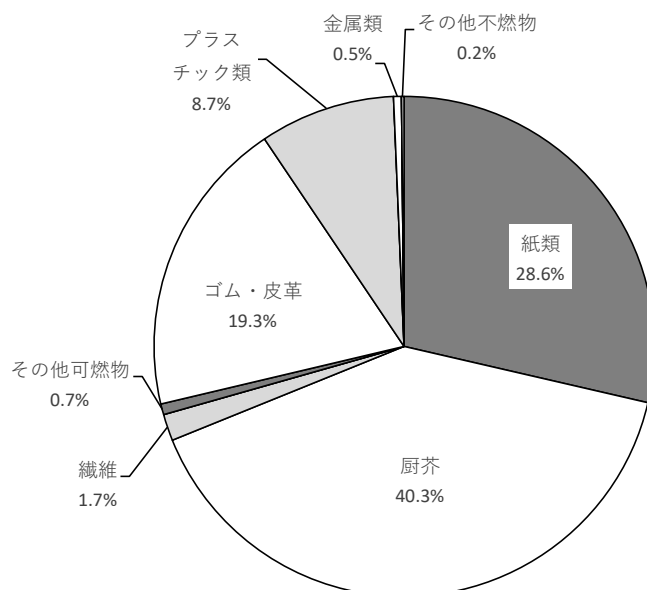


図 1-2-2 事業系の燃やすごみの組成(概要)

③家庭ごみと事業系ごみの合計

家庭ごみと事業系ごみを合計した燃やすごみは、厨芥が31.2%と最も高く、次いで、紙類が28.6%、プラスチック類が12.6%と続いている。

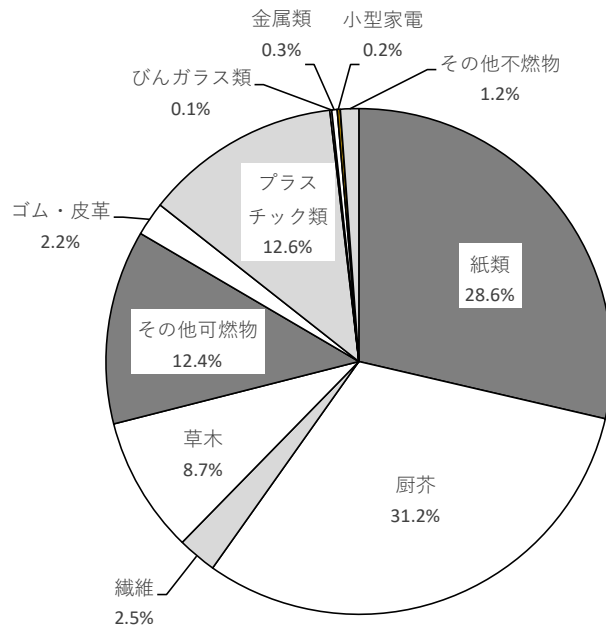


図 1-2-3 家庭ごみと事業系ごみの合計の燃やすごみの組成(概要)

(2) 燃やさないごみ

①家庭ごみ

家庭ごみの燃やさないごみは、金属類が36.7%と最も高く、次いで、小型家電が17.4%、びんガラス類が15.6%と続いている。

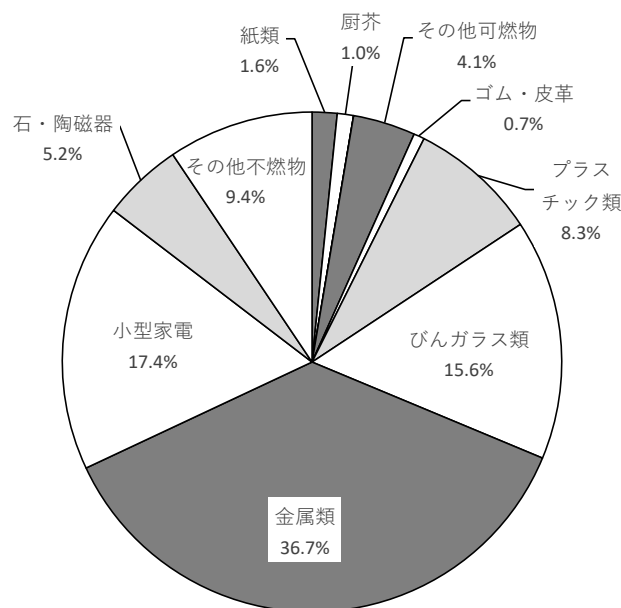


図 1-2-4 家庭ごみの燃やさないごみの組成(概要)

②事業系ごみ

事業系ごみの燃やさないごみは、その他不燃物が70.1%と最も高く、次いで、金属類が27.0%、プラスチック類が2.7%と続いている。

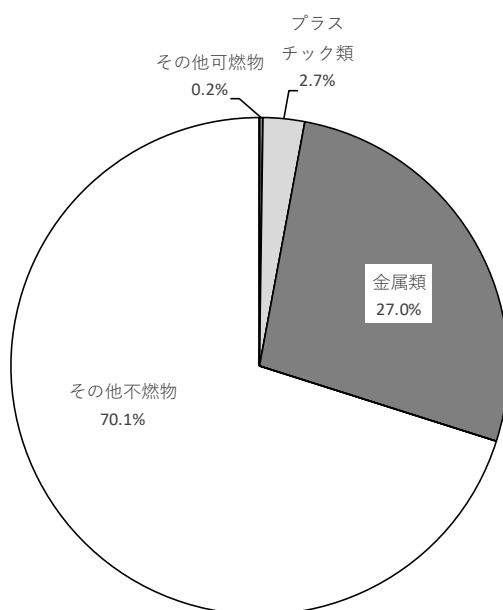


図 1-2-5 事業系ごみの燃やさないごみの組成(概要)

③家庭ごみと事業系ごみの合計

家庭ごみと事業系ごみを合計した燃やさないごみは、金属類が42.4%と最も高く、次いで、小型家電が17.4%、びんガラス類が9.9%と続いている。

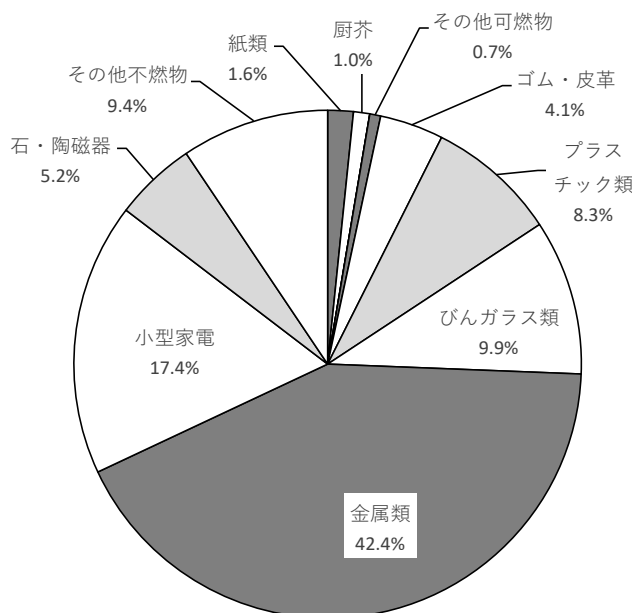


図 1-2-6 家庭ごみと事業系ごみの合計の燃やさないごみの組成(概要)

(3) プラスチック製容器包装

プラスチック製容器包装は、プラスチック類が93.7%、プラスチック類以外のものとして、紙類が2.3%、厨芥1.4%など合計6.3%含まれている。

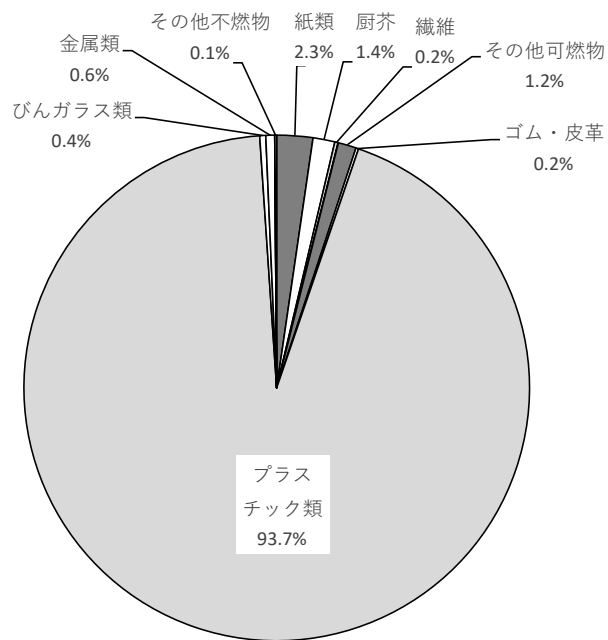


図 1-2-7 プラスチック製容器包装の組成(概要)

2.2 プラスチック製容器包装の汚れ調査

プラスチック製容器包装中のプラスチック製容器包装の内訳は、パック・カップ類が最も多く 38.6%、次いで、包装フィルム類が 31.6%、その他ボトルが 11.5%と続いている。

プラスチック製容器包装中には、外側汚れ 14.4%と残留物あり 1.1%が含まれている。

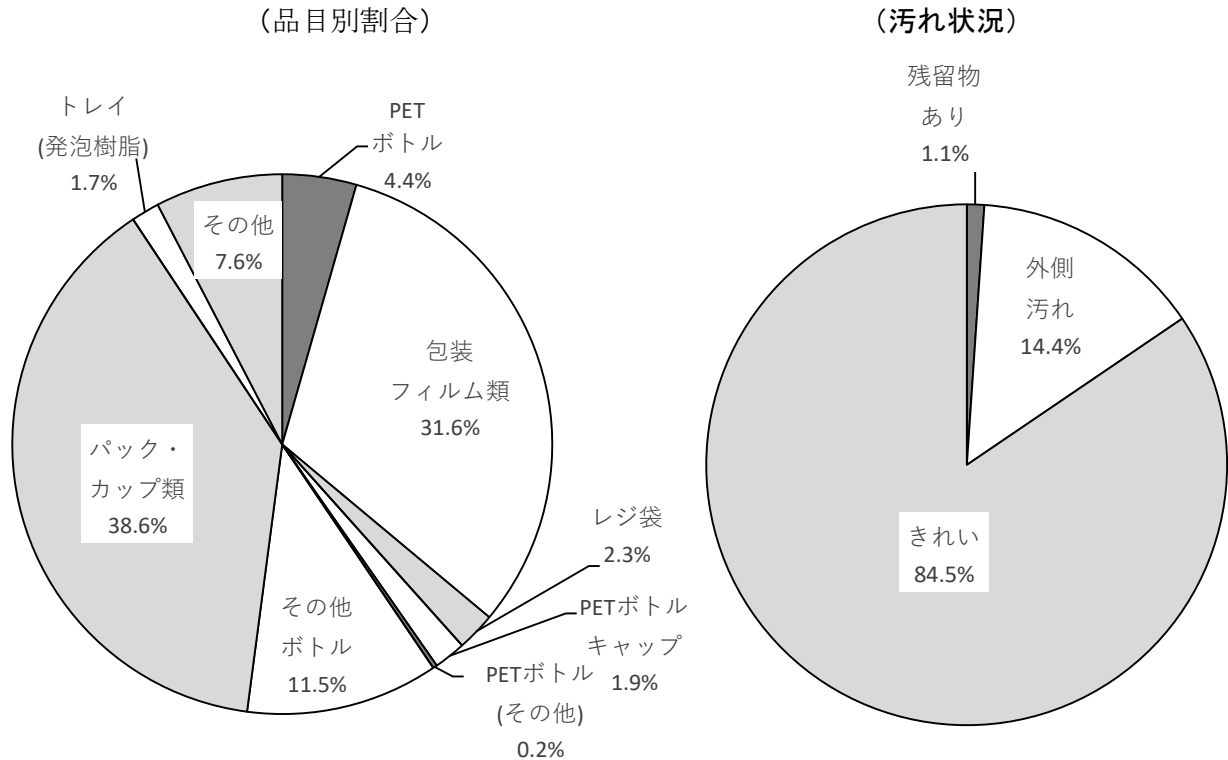


図 1-2-8 プラスチック製容器包装中のプラスチック製容器包装の汚れ状況

2.3 製品プラスチックの品目

(1) 燃やすごみ（家庭ごみ）

燃やすごみの製品プラスチックの組成は、プラスチックのみが 89.1%、複合品が 10.9% である。

表 1-2-1 燃やすごみの製品プラスチックの品目別の重量と割合

製品名		個数	重量(kg)	重量割合
プラスチックのみ	ロール袋		8.97	26.8%
	ラップ		5.34	15.9%
	シューズボックス	1	1.23	3.7%
	ビニールシート	3	1.12	3.3%
	市販袋		0.81	2.4%
	保存袋		0.69	2.1%
	ケース	2	0.68	2.0%
	植木鉢	7	0.66	2.0%
	衣装カバー	4	0.45	1.3%
	浮き輪	1	0.25	0.7%
	調味料入れ	5	0.25	0.7%
	ビデオテープケース	2	0.22	0.7%
	コップ	2	0.18	0.5%
	スマホケース	3	0.18	0.5%
	バッグ	1	0.17	0.5%
	スタンド 台座	1	0.16	0.5%
	タッパー	3	0.16	0.5%
	手桶	1	0.15	0.4%
	ペン立て	1	0.14	0.4%
	足つぼマット	1	0.12	0.4%
	かご	2	0.12	0.4%
	トート バッグ	1	0.12	0.4%
	プラモデル	1	0.11	0.3%
	CDケース	1	0.08	0.2%
	スマホスタンド	1	0.08	0.2%
	ビニール傘	1	0.08	0.2%
	ハンガー	1	0.05	0.1%
	50g未満		7.26	21.7%
	プラのみ合計	46	29.83	89.1%
複合品	ビデオテープ	3	0.75	2.2%
	ピンチハンガー	1	0.58	1.7%
	バインダー	1	0.28	0.8%
	ファスナーファイルケース	1	0.17	0.5%
	布団カバー	1	0.15	0.4%
	ボトルケース	1	0.11	0.3%
	クリップ	1	0.05	0.1%
	ポーチ	1	0.05	0.1%
	50g未満		1.51	4.5%
	複合品合計	10	3.65	10.9%
製品プラスチック合計		56	33.48	100.0%

(2) 燃やさないごみ（家庭ごみ）

燃やさないごみの製品プラスチックの組成は、プラスチックのみが 40.5%、複合品が 59.5%である。

表 1-2-2 燃やさないごみの製品プラスチックの品目別の重量と割合

製品名		個数	重量(kg)	重量割合
プラスチックのみ	フロアタイル	4	1.00	13.3%
	ボード	1	0.86	11.4%
	スマホスタンド	2	0.26	3.5%
	棚	1	0.19	2.5%
	メガネケース	1	0.14	1.9%
	ロール袋		0.14	1.9%
	造花	1	0.08	1.1%
	ヘアブラシ	1	0.06	0.8%
	蓋	1	0.05	0.7%
	ラップ		0.03	0.4%
	保存袋		0.01	0.1%
	市販袋		0.01	0.1%
	50g未満		0.22	2.9%
	プラのみ合計	12	3.05	40.5%
複合品	テーブル板	1	1.77	23.5%
	セロテープカッター	1	0.68	9.0%
	バッグ	1	0.47	6.2%
	キャスター	4	0.44	5.8%
	鉛筆削り	1	0.23	3.1%
	布団ばさみ	1	0.12	1.6%
	教材バインダー	1	0.09	1.2%
	ひげそり	1	0.05	0.7%
	メジャー巻尺	1	0.05	0.7%
	50g未満		0.58	7.7%
	複合品合計	12	4.48	59.5%
製品プラスチック合計		24	7.53	100.0%

(3) プラスチック製容器包装

プラスチック製容器包装の製品プラスチックの組成は、プラスチックのみが 94.8%、複合品が 5.2%である。

表 1-2-3 プラスチック製容器包装の製品プラスチックの品目別の重量と割合

製品名		個数	重量(kg)	重量割合
プラスチックのみ	植木鉢	15	2.49	21.9%
	ロール袋		1.58	13.9%
	ラップ		1.11	9.8%
	工具箱	1	0.84	7.4%
	市販袋		0.51	4.5%
	風呂イス	1	0.46	4.0%
	かご	2	0.45	4.0%
	保存袋		0.3	2.6%
	網戸のあみ	1	0.19	1.7%
	ケース	1	0.14	1.2%
	DVDケース	1	0.07	0.6%
	皿	1	0.05	0.4%
	粘着カーペット クリナーのカバー	1	0.05	0.4%
	50g未満		2.53	22.3%
	プラのみ合計	24	10.77	94.8%
複合品	洗濯ばさみ	1	0.22	1.9%
	掃除機のホース	1	0.14	1.2%
	50g未満		0.23	2.0%
	複合品合計	2	0.59	5.2%
製品プラスチック合計		26	11.36	100.0%

2.3 排出容器の見かけ比重

ごみ種別の排出容器の見かけ比重は、家庭ごみについては、燃やすごみが 0.129kg/L、燃やさないごみが 0.161kg/L、プラスチック製容器包装が 0.029kg/L である。事業系ごみについては、燃やすごみが 0.202kg/L、燃やさないごみが 0.223kg/L である。

表 1-2-4 見かけ比重の調査結果

		重量(kg)	容積(L)	比重(kg/L)
家庭ごみ	燃やすごみ	1,112.13	8,640	0.129
	燃やさないごみ	102.04	635	0.161
	プラスチック製容器包装	108.13	3,750	0.029
事業系ごみ	燃やすごみ	95.96	475	0.202
	燃やさないごみ	4.45	20	0.223

2.4 過去の調査結果との比較

過去の組成調査との比較を行った。

(1) 燃やすごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)

令和元年度と比べて、本調査ではその他可燃物が5.0%増加し、厨芥が7.5%減少している。

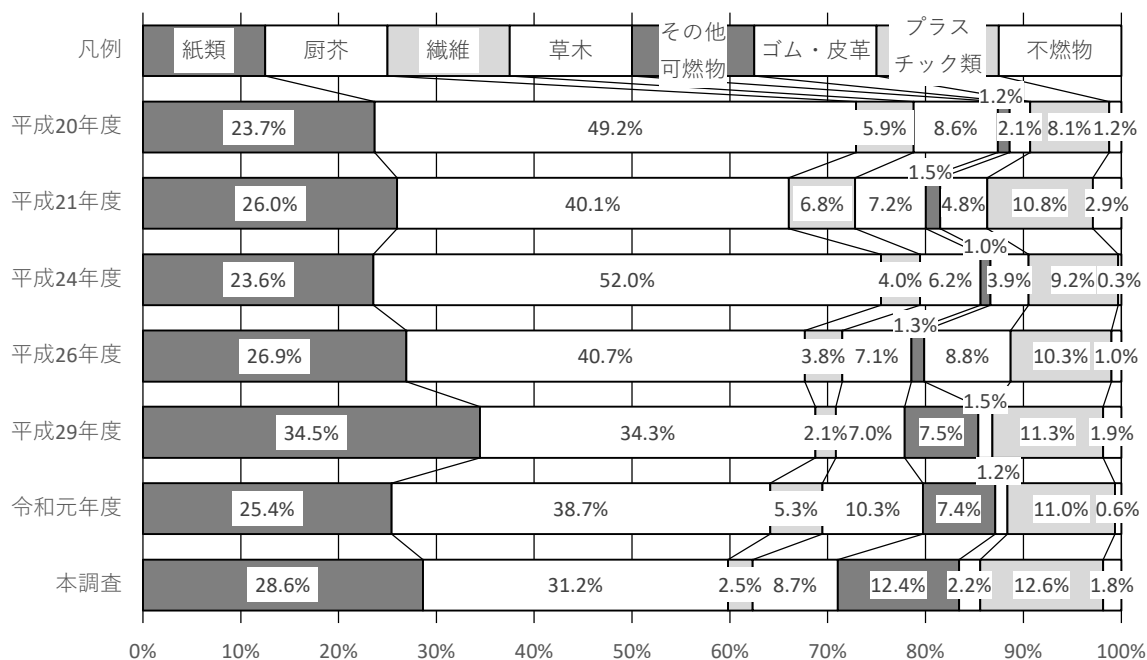


図 1-2-9 過去の調査結果との比較(燃やすごみ)

(2) 燃やさないごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)

令和元年度と比べて、本調査では小型家電が10.1%増加し、石・陶磁器が8.6%減少している。

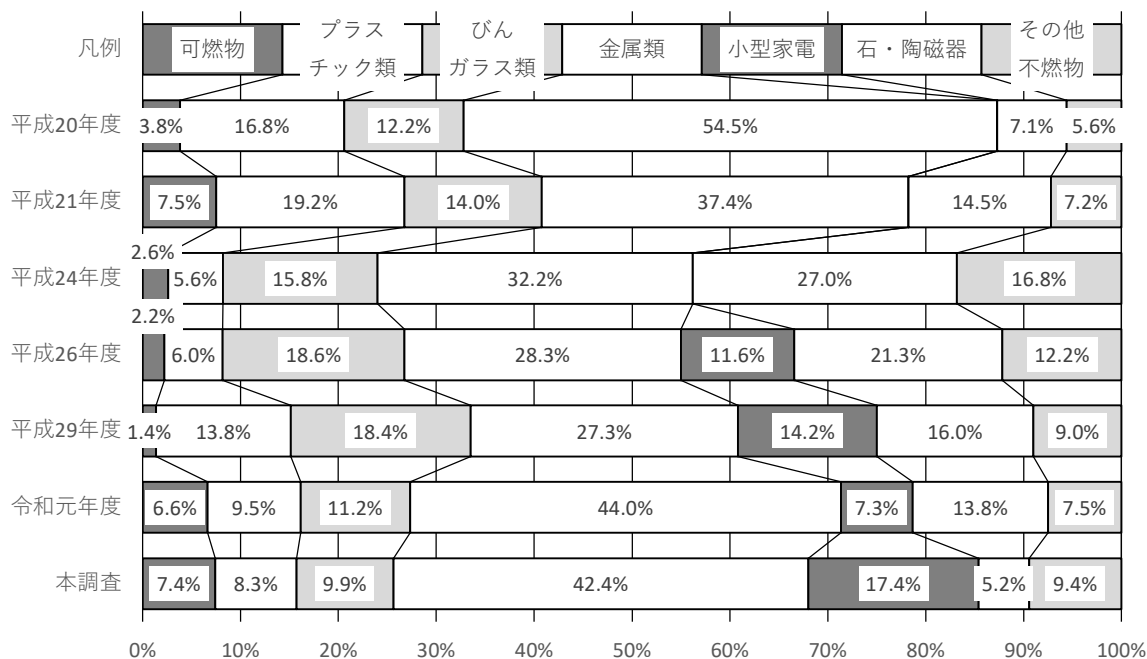


図 1-2-10 過去の調査結果との比較(燃やさないごみ)

(3) プラスチック製容器包装

令和元年度と比べて、本調査ではその他容器包装のプラスチックが 6.1%増加し、PET ボトルが 3.7%減少している。

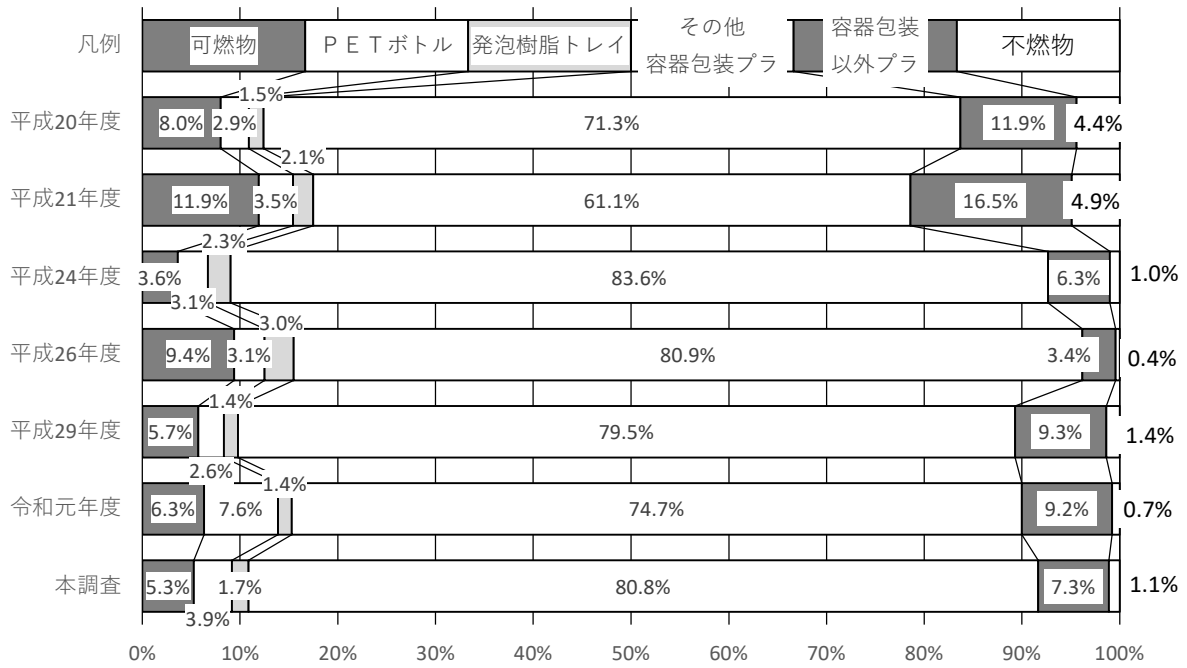


図 1-2-11 過去の調査結果との比較(プラスチック製容器包装)

2.5 適正排出率と資源等混入率

調査結果から、分別区分ごとに適正に排出されている割合(適正排出率)及び資源等の混入率を算出した。

(1) 燃やすごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)

燃やすごみの適正排出率は77.3%、混入物は22.7%で、その内訳は、燃やさないごみが1.7%、プラスチック製容器包装が9.1%、資源が11.9%である。

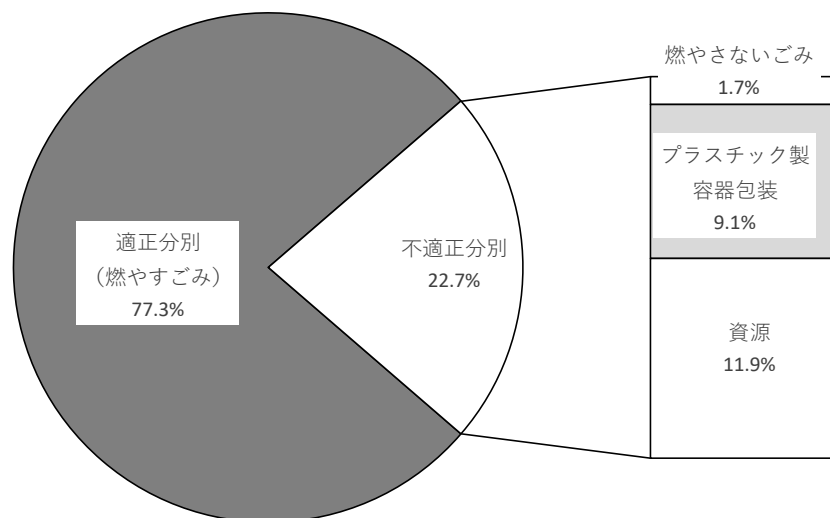


図 1-2-12 適正排出率と資源等混入率(燃やすごみ)

(2) 燃やさないごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)

燃やさないごみの適正排出率は68.6%、混入物は31.4%で、その内訳は、燃やすごみが13.0%、プラスチック製容器包装が1.0%、資源が17.3%である。

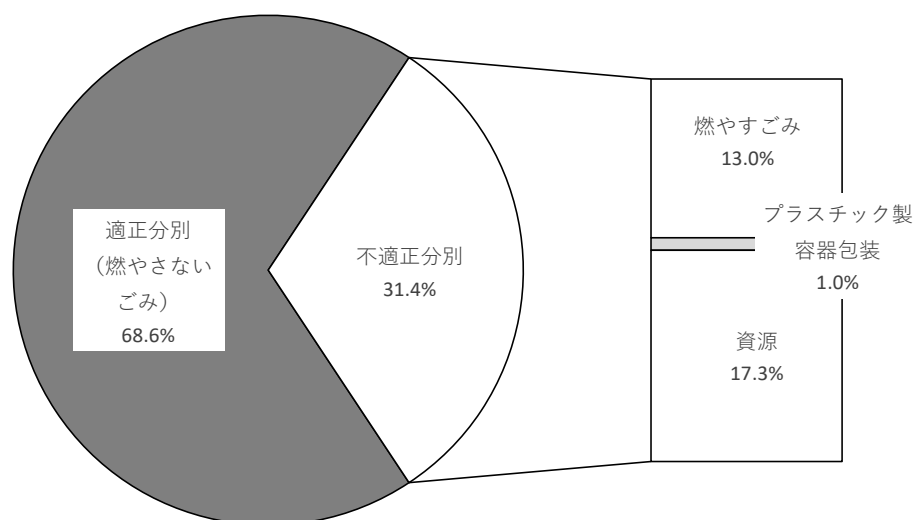


図 1-2-13 適正排出率と資源等混入率(燃やさないごみ)

(3) プラスチック製容器包装

プラスチック製容器包装の適正排出率は80.8%、混入物は19.2%で、その内訳は、燃やすごみが11.7%、燃やさないごみが0.8%、資源が6.7%である。

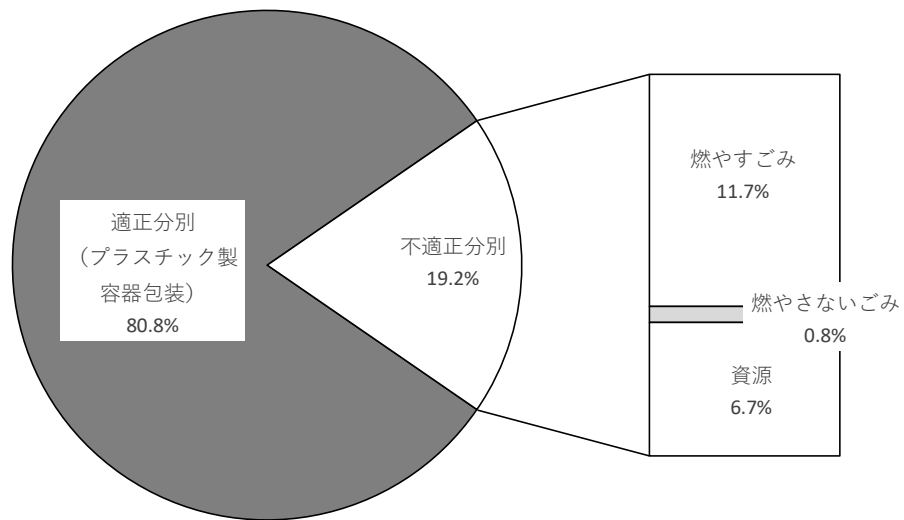


図 1-2-14 適正排出率と資源等混入率(プラスチック製容器包装)

第3章 目標達成に必要な分別協力率

葛飾区では、葛飾区一般廃棄物処理基本計画(第4次)において、令和12年度の区民1人1日あたりの区収集ごみ量425g/人日という目標を設定している。

本調査で明らかになった、燃やすごみと燃やさないごみへの資源物の混入状況、令和3年度のごみ量の実績値より、目標達成に必要な分別協力率について推計した。

(1) 令和3年度の品目別ごみ量推計

令和3年度の区収集ごみ量は82,938tで、人口と年間日数で除した区民1人1日あたりの区収集ごみ量は492g/人日である。

表 1-3-1 令和3年度の区収集ごみ量

単位: t/年

分別区分		令和3年度
ごみ	燃やすごみ	77,789
	燃やさないごみ	1,708
	粗大ごみ	3,440
	ごみ合計	82,937
人口(人)		462,170
区民1人1日あたりごみ量(g/人日)		492

令和3年度の燃やすごみと燃やさないごみの量に、本調査で把握した組成割合を乗じることで推計した資源量は、燃やすごみが16,300t、燃やさないごみが313t、合計で16,613tである。

表 1-3-2 令和3年度の品目別ごみ量推計

単位: t/年

		燃やすごみ	燃やさないごみ	粗大ごみ	合計
資源	紙類	新聞紙	939		939
		雑誌	971		971
		書籍	274		274
		段ボール	949	8	958
		容器包装	2,945	5	2,949
		OA用紙	1,153		1,153
		雑紙	1,591	5	1,595
	PETボトル	227	0	227	
	発泡樹脂トレイ	78	10	88	
	飲食用びん	68	134	203	
	飲食用缶	24	133	158	
	プラスチック製容器包装	7,081	17	7,099	
	小計	16,300	313	16,613	
	可燃物	60,158	223	60,381	
不燃物	1,331	1,172	2,503		
粗大物			3,440	3,440	
合計	77,789	1,708	3,440	82,937	
資源の混入率	21.0%	18.4%			

(2) 目標達成後の品目別ごみ量推計

一方、目標値は425g/人日であることから、粗大ごみを含む区収集ごみ量全体で13.6%のごみ減量が必要である。これに区収集ごみ量82,938tを乗じると、目標達成のためには11,294tの更なる減量が必要である。

その結果、分別協力率の向上で目標値を達成する場合には、燃やすごみと燃やさないごみに混入している資源物の68.0%を減量する必要がある。

表 1-3-3 目標達成に必要な資源物の適正分別割合

1人1日あたりの区収集ごみ量(g/人日)	令和3年度	A	492
	令和12年度目標値	B	425
目標達成に必要な減量率		$C=1-(B/A)$	13.6%
区収集ごみ量(t/年)		D	82,937
目標達成に必要な減量ごみ量(t/年)		$E=D*C$	11,294
燃やすごみと燃やさないごみに含まれる資源量(t/年)		F	16,613
目標達成に必要な資源物の適正分別割合		$G=E/F$	68.0%

目標値を達成した場合のごみ量は、燃やすごみが66,708t、燃やさないごみが1,495tとなる。また、資源物の混入率は、燃やすごみが現状の21.0%から7.8%、燃やさないごみが現状の18.4%から6.7%に減少することになる。

表 1-3-4 目標達成後の品目別ごみ量推計

		燃やすごみ	燃やさないごみ	粗大ごみ	合計
資源	紙類	新聞紙	301	0	301
		雑誌	311	0	311
		書籍	88	0	88
		段ボール	304	3	307
		容器包装	943	2	944
		OA用紙	369	0	369
		雑紙	509	1	511
	PETボトル	73	0	73	
	発泡樹脂トレイ	25	3	28	
	飲食用びん	22	43	65	
	飲食用缶	8	43	50	
	プラスチック製容器包装	2,267	6	2,273	
	小計	5,219	100	5,319	
	可燃物	60,158	223	60,381	
不燃物	1,331	1,172	2,503		
粗大物			3,440	3,440	
合計	66,708	1,495	3,440	71,643	
資源の混入率	7.8%	6.7%			

第2部 食品ロス調査

第1章 調査概要

1.1 調査の目的

葛飾区のごみ性状調査において、家庭から排出される燃やすごみに含まれる生ごみの食品ロスについて組成割合を算定し、葛飾区における食品ロス発生量を推計することが、本調査の目的である。

1.2 調査の内容

本調査は、葛飾区ごみ性状調査で排出された生ごみを対象に、食品ロスについて詳細に調査した。

(1) 生ごみの分類

葛飾区ごみ性状調査では、生ごみについて、未使用のまま廃棄された生ごみを「直接廃棄」、調理後の食べ残しを「食べ残し」、調理の際に出た調理くずを「調理くず」として分類した。本調査では、「直接廃棄」された品目について、「直接廃棄 100%」、「直接廃棄 50%以上」、「直接廃棄 50%未満」に分類した。

(2) 食品ロスの割合推計

葛飾区ごみ性状調査では、6地域ごとに集計したデータを人口で加重平均して集計している。一方で、本調査による直接廃棄の分類は、単純平均で集計している。そのため、「直接廃棄」、「食べ残し」、「調理くず」の割合は葛飾区ごみ性状調査で推計した値を用い、「直接廃棄」を本調査の割合で按分して「直接廃棄 100%」、「直接廃棄 50%以上」、「直接廃棄 50%未満」の割合を推計した。

(3) 「直接廃棄 100%」、「直接廃棄 50%以上」の細分類

食品ロスの品目ごとに23種類に分類した。

賞味期限と消費期限を回収日と比較して、「期限前廃棄」と「期限後廃棄」に分類した。

容器を取り除いて容器の重量を計量し、容器の割合を算定した。

第2章 調査結果と解析

2.1 生ごみの割合

家庭から排出される燃やすごみに占める生ごみの割合は30.58%、内訳は、「直接廃棄」が5.76%、「食べ残し」が3.44%、「調理くず」が21.38%である。「直接廃棄」の内訳は、「直接廃棄100%」が4.11%、「直接廃棄50%以上」が0.78%、「直接廃棄50%未満」が0.87%である。

表 2-2-1 生ごみの割合

区分		生ごみに 占める割合	燃やすごみに 占める割合
直接廃棄	直接廃棄100%	13.45%	4.11%
	直接廃棄50%以上	2.54%	0.78%
	直接廃棄50%未満	2.84%	0.87%
	小計	18.82%	5.76%
食べ残し		11.26%	3.44%
調理くず		69.91%	21.38%
合計		100.00%	30.58%

2.2 直接廃棄の詳細

(1) 賞味期限・消費期限

容器に記載されている賞味期限・消費期限を調査して、回収日と比較した。賞味期限が記載されているものが31.62%、消費期限が記載されているものが13.21%、不明のものが55.17%である。不明なものが多いのは、賞味期限・消費期限の記載のない野菜・果物の割合が高かったためである。

期限前に廃棄されたものは、賞味期限前が6.97%、消費期限前はゼロであった。

表 2-2-2 賞味期限・消費期限

区分		直接廃棄100%		直接廃棄50%以上		直接廃棄50%未満		合計	
		重量(g)	割合	重量(g)	割合	重量(g)	割合	重量(g)	割合
賞味期限	期限前	1,401	3.05%	1,922	22.13%	1,163	11.98%	4,486	6.97%
	期限後	11,145	24.23%	2,904	33.43%	1,826	18.81%	15,875	24.65%
	小計	12,546	27.28%	4,826	55.55%	2,989	30.79%	20,361	31.62%
消費期限	期限前	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	期限後	6,120	13.31%	1,143	13.16%	1,242	12.79%	8,505	13.21%
	小計	6,120	13.31%	1,143	13.16%	1,242	12.79%	8,505	13.21%
不明		27,331	59.42%	2,718	31.29%	5,476	56.41%	35,525	55.17%
合計		45,997	100.00%	8,687	100.00%	9,707	100.00%	64,391	100.00%

(2) 品目

品目別では、果物が 18.95%で最も多く、次いで、野菜が 15.55%、菓子が 8.20%と続いている。

表 2-2-3 品目別の割合

品目	直接廃棄100%		直接廃棄50%以上		直接廃棄50%未満		合計	
	重量(g)	割合	重量(g)	割合	重量(g)	割合	重量(g)	割合
肉	2,035	4.42%	0	0.00%	56	0.58%	2,091	3.25%
魚	959	2.08%	70	0.81%	117	1.21%	1,146	1.78%
たまご	347	0.75%	0	0.00%	0	0.00%	347	0.54%
野菜	5,043	10.96%	1,647	18.96%	3,321	34.21%	10,011	15.55%
果物	11,503	25.01%	329	3.79%	369	3.80%	12,201	18.95%
ごはん・米	182	0.40%	88	1.01%	175	1.80%	445	0.69%
パン	1,628	3.54%	1,034	11.90%	776	7.99%	3,438	5.34%
麺類	1,665	3.62%	374	4.31%	332	3.42%	2,371	3.68%
弁当・おにぎり	2,042	4.44%	0	0.00%	71	0.73%	2,113	3.28%
粉もの	420	0.91%	466	5.36%	0	0.00%	886	1.38%
大豆製品	3,248	7.06%	59	0.68%	587	6.05%	3,894	6.05%
野菜・果物加工品	3,565	7.75%	452	5.20%	751	7.74%	4,768	7.40%
肉・魚介類加工品	733	1.59%	461	5.31%	866	8.92%	2,060	3.20%
乳製品	568	1.23%	103	1.19%	259	2.67%	930	1.44%
惣菜	2,629	5.72%	224	2.58%	83	0.86%	2,936	4.56%
乾物	252	0.55%	0	0.00%	16	0.16%	268	0.42%
レトルト・インスタント食品	760	1.65%	0	0.00%	98	1.01%	858	1.33%
缶・びん食品	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
飲料品	1,231	2.68%	1,447	16.66%	566	5.83%	3,244	5.04%
調味料	236	0.51%	709	8.16%	260	2.68%	1,205	1.87%
菓子	3,297	7.17%	1,075	12.37%	910	9.37%	5,282	8.20%
付属の調味料等小袋	3,199	6.95%	0	0.00%	0	0.00%	3,199	4.97%
その他	455	0.99%	149	1.72%	94	0.97%	698	1.08%
合計	45,997	100.00%	8,687	100.00%	9,707	100.00%	64,391	100.00%

(3) 容器の重量

容器に入っているものは 73.03%、容器に入っていないものは 26.97%である。容器別では、プラスチック容器に入ったものが 66.02%、紙容器に入ったものが 6.41%、その他容器（びん・缶・アルミ容器など）が 0.60%である。

表 2-2-4 容器の重量

容器の種類		直接廃棄100%		直接廃棄50%以上		直接廃棄50%未満		合計	
		重量(g)	割合	重量(g)	割合	重量(g)	割合	重量(g)	割合
容器あり	プラスチック	27,671	60.16%	7,039	81.03%	7,799	80.34%	42,509	66.02%
	紙	3,669	7.98%	336	3.87%	121	1.25%	4,126	6.41%
	その他	156	0.34%	232	2.67%	0	0.00%	388	0.60%
	小計	31,496	68.47%	7,607	87.57%	7,920	81.59%	47,023	73.03%
容器なし		14,501	31.53%	1,080	12.43%	1,787	18.41%	17,368	26.97%
合計		45,997	100.00%	8,687	100.00%	9,707	100.00%	64,391	100.00%

(4) 容器の種類

直接廃棄総重量に占める容器の重量は 4.42%である。

表 2-2-5 容器の割合

項目	直接廃棄100%	直接廃棄50%以上	直接廃棄50%未満	合計
総重量(g)	45,997	8,687	9,707	64,391.0
容器重量(g)	1,785	457	603	2,845.0
割合	3.88%	5.26%	6.21%	4.42%

2.3 葛飾区の生ごみ量の推計

令和3年度の葛飾区の燃やすごみの量は 77,789t である。今回の調査で得られた組成割合を乗じて推計した年間発生量は、生ごみが 23,788t、内訳は、直接廃棄が 4,478t、食べ残しが 2,679t、調理くずが 16,631t である。

表 2-2-6 葛飾区の生ごみ量の推計

区分		燃やすごみに占める割合	生ごみ量の推計 (t/年)
直接廃棄	直接廃棄100%	4.11%	3,199
	直接廃棄50%以上	0.78%	604
	直接廃棄50%未満	0.87%	675
	小計	5.76%	4,478
食べ残し		3.44%	2,679
調理くず		21.38%	16,631
合計		30.58%	23,788

葛飾区ごみ性状調査 報告書（概要版）

発行：令和4年12月

委託：葛飾区 環境部 リサイクル清掃課

〒124-8555 東京都葛飾区立石 5-13-1

受託：株式会社 杉山・栗原環境事務所

〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-15-942